



わくわく子育て応援プログラム

ふれあいあそび

遊具も道具もあまり必要なく、ご家庭の中のちょっとした時間楽しめる遊びを紹介します

- ① ブランコ遊び
- ② 手あそび ♪一本橋 ♪お洗濯
- ③ 座って遊ぼう
(寝転んで足の体操 膝に座って(♪バスに乗って) ラッコでゴロゴロ)
- ④ ♪親子でメリーゴーランド



★ 子どもたちが飽きたり、大人が疲れるまで続けるのではなく、1回ずつ区切りをつけながら楽しむと、「もう1回」の発声やサインが引きだしやすくなります。子どもさんと視線を合わせてから、「もう1回しようね」と遊びを始めてください。

★ あそびの時の声かけにも、言葉が増えるヒントがあります。

遊びを始める時に「いくよー、1, 2, 3!」と声をかけたり、「大きい(強い)のにしようか」「こんどは、小さい(やさしい)のをするよ」などと揺れの強さや、身体に触れる力加減を言葉にして伝えたりしてください。数や「大きい」などの比較概念への気づきにつながります。

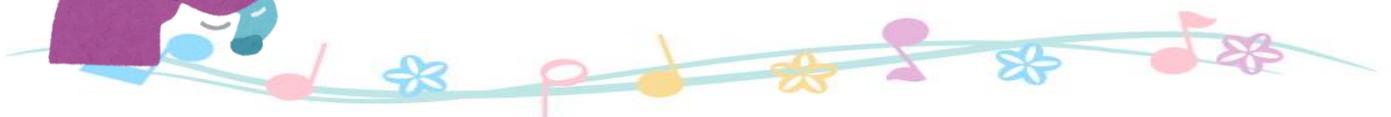


手あそび：「一本橋 こちょこちょ」

♪いっぽんばし こちょこちょ 叩いて つねって なでて 階段のぼって こちょこちょ



子どもと向き合ったり、膝に座らせたりしながら挑戦してください。ちょっと強めに触ると感覚の違いが分かりやすいかもしれません。右手から左手に、手から足に変えてみるのも楽しいですよ。



子どもにとってのふれあいあそびとは、

◎コミュニケーションの根っこになる

あそびが楽しいと、子どもたちは全身で喜びを表現したり、大きな声をあげて喜んだりします。そのような子どもたちの発信を大人が受け止めて、「楽しいね」「もう1回する？」などと声をかけながら繰り返し楽しみましょう。



自分の発信（態度や発声、もちろん言葉も）を受け止めてもらう、受け止めてもらったから、また発信するというような相互性のやり取りがコミュニケーションであり、言葉の土台になります。

Q：「TVや動画では、言葉は増えない??」

A：「ことば」は双方性のやり取り（コミュニケーション）の中で育ちます。

子どもたちが見ているもの、聞いているもの、発見したものに言葉を添えると、大きな気づきになります。発信したサインを受け止めてくれる人がいることが、「話したい」気持ちを育てます。

